

令和3年度暫定評価結果の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況
1. 中期目標で示した、各病院における病床利用率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。	<p>令和3年度は、令和2年度に続き、各病院ともに SARS-CoV-2(『新型コロナウイルス』という。)感染症の影響により以前と比べると病床稼働率については低い水準となった。</p> <p>総合病院では新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用した。その結果、一般病床稼働率は88.2%であったが、新型コロナウイルス感染症専門病床を除く一般病床稼働率は92.5%となり、目標値90%を上回った。</p> <p>また、こころの医療センターでは新型コロナウイルス感染症患者受入のために個室病床を確保している中で、自傷他害の可能性がある重症患者等4人室での入院が困難な患者数に対して個室病床の運用が困難となっていることもあり、病床稼働率が78.5%と前年度実績及び目標値(85.0%)を下回っている。</p> <p>なお、コロナ病床を除く稼働率は80.4%であった。</p> <p>こども病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は目標値(75.0%)を下回ったが、感染拡大が下火となり患者数が増加に転じ、令和2年4月から正式稼働した入退院支援センターにて、効率的な病床稼働を目指した結果、令和3年度は目標値を上回る76.7%となった。</p> <p>今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図っていく。</p>

<p>2. こころの医療センターにおいては、デイケアの新規利用者増加に取り組まれない。</p>	<p>令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止に取り組んでいることもあり、在宅医療支援活動件数は伸び悩み、令和3年度の実績は1,388件となった。</p> <p>過去の実績と比較し、大幅に減少した要因としては、病棟外作業療法は参加人数を絞りリモートによる実施とし、デイケア活動は昼食を跨がないショートケアのみ最大10人まででの実施と活動を縮小していたことがある。</p> <p>その後、緊急事態宣言の発令やオミクロン株感染拡大の影響により、8月中旬から10月まで55日、及び1月下旬から3月末まで46日、ショートケアの実施を停止したことも大きく影響した。</p> <p>そのため、例年と比較して実施件数が減少しているが、再開後を見据えてコロナ下でも実施可能な活動に取り組み、利用患者との繋がり維持に努めている。</p> <p>今後も、訪問時の感染症対策に配慮しながら、積極的な支援を実施していく。</p>
<p>3. こども病院におけるラーニングセンターについては、院内研修の集約化による研修環境改善に向けて引き続き検討されたい。</p>	<p>旧手術室を活用したラーニングセンターは、令和2年度末まで本館リニューアル工事中の倉庫、令和3年7月まで北館5階病棟改修工事中の備品置場として使用した。令和3年8月からは、新型コロナ対策物品の倉庫として使用している。</p> <p>このため、令和3年度の研修については、従来のラーニングセンターにこだわることなく、病棟再編を進める中の暫定対応として、シミュレーションは空病床で、講義は会議室等で実施した。</p> <p>なお、院内研修の場所については、これまで検討していた旧手術室からより最適な場所をマスタープランとの整合性を図りつつ再検討している。</p>